

年齢を重ねることによる「作業のやりやすさ」と「作業のやりにくさ」とについて

— シニア社員を対象としたアンケート調査 —

芦高 勇気

渡辺 めぐみ*

福馬 浩一

大谷 総一郎

* 常磐大学人間科学研究科

1 はじめに

年齢を重ねることによる心身の変化によって、業務や作業への負担感などに影響が生じることが推測されます。本研究では年齢を重ねたシニア社員（60 歳から 65 歳まで）が、この影響についてどのように感じているかと、どのような工夫を行っているのかとについてアンケート調査を行いました。対象者は、新たにシニア社員となった社員を中心に、既にシニア社員となっている社員を対象としました。

2 アンケート調査

2.1 実施概要

本アンケート調査をオンラインで行いました。回答者は 124 名でした。なお、対象者は全員が同じ部門に所属していました。回答時間は 15 分程度でした。アンケートの説明文に目的や個人情報の取り扱いなどについて記載し、調査協力の同意を得ました。

2.2 調査項目

マイナス側面の質問項目として、「シニアに近くなって（50 代以降くらい）からやりにくくなった業務（作業）や特に気を付けている業務（作業）はありますか。」について、「ある」か「ない」かの選択で回答を求めました。さらに、その業務（作業）の内容について短文の自由記述での回答を求めました。プラス側面の質問項目として、「シニアに近くなって（50 代以降くらい）からやりやすくなった業務（作業）や困らなくなった業務（作業）はありますか。」について同様に、有無の選択と自由記述の回答とを求めました。最後に「シニアに近くなって（50 代以降くらい）から業務（作業）でどのような工夫をしていますか？」について、短文の自由記述での回答を任意で求めました。

2.3 結果

年齢を重ねることによる影響を、プラスとマイナスの側面から分析すると、図 1 に示すように様々な割合に分かれました。また、自由記述について分類した結果（図 2）、マイナ

ス側面の質問で「ある」と答えた人では、“デジタル（例：タブレット端末の取扱い）”、“視力（例：小さい文字やもの）”、“体力（例：力仕事）”、“記憶・注意（例：新しいことを覚えるのにくい）”に関する作業が多くありました。プラス側面の質問で「ある」と答えた人では、“自身の取り組み（例：経験の蓄積）”が最も多く、次いで“環境（例：新しいコミュニケーションツールの導入）”に関する記述が多くありました。工夫の質問については91名の回答がありました。分類した結果、“繰り返しの確認”の27%と“メモを取る”の14%が多かったほか、“段取り”や“ゆっくり”などの様々な工夫がありました。また、“なし”と記したものが13%でした。

図1 年齢を重ねることによるマイナス側面の質問とプラス側面の質問の選択回答集計

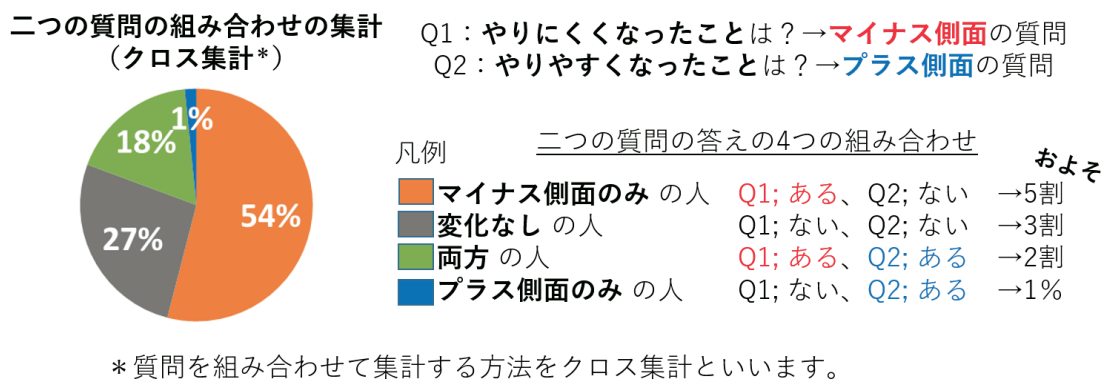
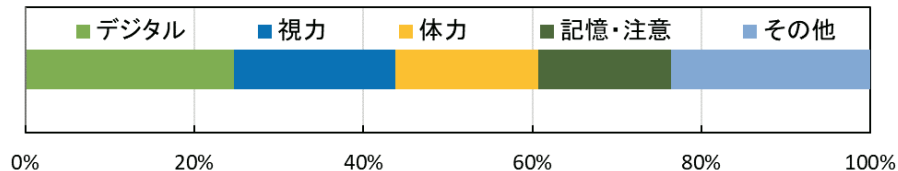
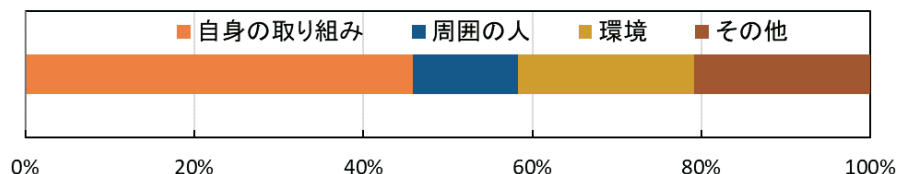


図2 マイナス側面の質問とプラス側面の質問の回答内容に関する記述内容の分類

Q1 “マイナス側面の質問”に「ある」と答えた89名の記述内容の分類



Q2 “プラス側面の質問”に「ある」と答えた24名の記述内容の分類



3 まとめ

シニア社員がどのように業務や作業を感じているのかについて、プラスとマイナスの両側面で比率を捉えることができました。また、その作業内容について、心身の機能低下などによってやりにくくなった作業の特徴と、経験の蓄積などによってやりやすくなった作業の特徴とを得ました。そして、年齢を重ねたことによる作業への感じ方や工夫が多様であることがわかりました。職場がシニア社員を受け入れる際には、このような特徴について把握することで、シニア社員が働きやすい職場づくりに役立つと考えられます。